



「ながはま御坊表参道」の正面にある長浜御坊大通寺の山門(大門)。二重の大きな屋根を持ち、左右に山廊(さんろう)と呼ばれる建物がある。

その話は、江戸時代初期の長浜御堂(のちの大通寺)の移転問題に関わる。御堂はもともと旧長浜城内にあつたが、現在地の石田屋敷跡に移転する際、移転派と城内派が対立し、京都の本山で決めてもらうことになった。先発した城内派が野洲川まで

花きつねのオブジェがある。大通寺に昔から住むといふ昔話を聞くことができる。

「ごぼうさん」の愛称で親しまれている長浜別院大通寺(真宗大谷派)。門前の「ながはま御坊表参道」商店街に、四肢を広げたユニークな「お花きつね」のオブジェがある。大通寺に昔から住むといふ昔話を聞くことができる。

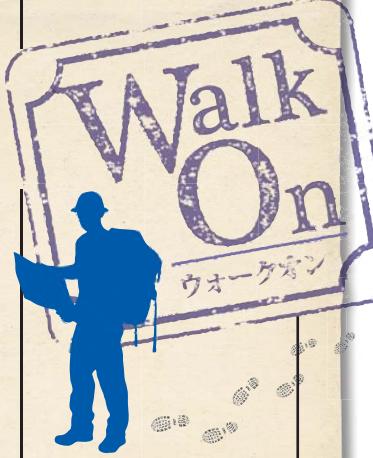
来るに。仕方なく堤防の茶店で休息すると、「お花」という娘が手厚くもてなしてくれた。ようやく川が渡れるようになり、急ぎ京都に着くと、後発の移転派がすでに本山の許可を得て帰るところ。がっかりした城内派の一行が野洲川まで戻ると件の茶店はな

く、娘もいなかつた。移転に賛成だった石田屋敷のきつねの仕業だったのだろうか…。お花きつねにまつわる話は他にもあり、民話として語り継がれている。大通寺の門前町として発展してきた長浜の人々の「お花さん」を愛する思いが伝わってくるようだ。



モデルコース
JR長浜駅 10分 ながはま御坊表参道・お花きつねオブジェ 2分 針屋橋 3分 大通寺 10分 黒壁ガラス館 10分 JR長浜駅
※移動時間はあくまでも目安です。

バックナンバーをKEIBUNホームページ
「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>



大通寺

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 長浜市

- 歩行距離▶約2km
- 歩行時間▶約40分

お花きつねは昔から大通寺の大広間の天井に住んでいるといわれ、広間には梯子(はしご)が掛けられている。「お花さん」は大通寺を火災から守っているともいわれていて、この梯子をのぼって油揚げをお供えする人があつたといふ。拝観の際には梯子を探してみては?



お花きつねのオブジェ

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな「近江」という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。

